大江山 鬼伝説

大江山に伝わる三つの鬼退治伝説

大江山と言えば鬼退治伝説。古来からこの山の名は鬼の窩として知られていた。この大江山には有名な酒呑童子の伝説をはじめ、三つの鬼退治伝説が伝えられている。

源頼光と酒呑童子

正暦元年（平安時代中期）、京の都を荒らし回った大江山の鬼・酒呑童子を、源頼光が酒に酔わせて騙し討ちに退治した話は謡曲やお伽草子に表されあまりにも有名。退治した源頼光よりも、退治された酒呑童子の方が有名になるということを作者は予想していただろうか。室町時代初期の創作と考えられている。

麻呂子親王と三人の鬼

用明天皇の時代、英胡・迦楼夜叉・土熊の三人の鬼が三上ケ嶽（大江山）を本拠に暴れ回っていたので、麻呂子親王（聖徳太子の異母弟）に退治させた話。薬師信仰との関係が深く、また北近畿地方一帯に多くの痕跡が残っている。

日子坐王と陸耳御笠

「丹後風土記残缺」に表されている最初の鬼退治伝説。第十代崇神天皇の時代に日子坐王が陸耳御笠という土蜘蛛を退治した話。元伊勢の伝説とも絡んで、大和勢力による古代丹後地方勢力の吸収劇が隠されているのではと言われている。

酒呑童子異説

今から約一、〇〇〇年の昔、平安時代は京の都から都一の美人とうわさされていた池田中納言の娘紅葉姫の姿が突然消えた。

「さては最近ちまたで酒売り長者と評判の高い酒呑童子の仕業ではないか」と日頃その人気をねたんでいた占い師の安部春明が帝に進言した。

春明をかわいがっていた帝は、その言葉をうのみにして、日本一の武者と言われている源頼光に姫の救出を命じた。

何も知らない頼光は、酒呑童子が酒の仕込みに京を離れたのを追っ手から逃れるためと思い込み、極悪非道の酒呑童子を討つためさっそく後を追って大江山へと向かった。

大江山に来て頼光が目にしたものは、都の美しさにひけをとらない童子の屋敷と、仲むつまじく暮らす童子と紅葉姫の姿であった。

かねてから紅葉姫に思いを寄せていた頼光は、紅葉姫の幸福そうな姿を見て「童子なら許せる」とつぶやきながら山を下りようとしたその時、うしろで童子の悲鳴が聞こえた。

急いでもどってみると、安部春明に率いられた武者の一団が童子屋敷に火を放ち、使用人たちを次々に痛めつけているところであった。「紅葉姫はどこじゃ」。声の限りをつくして呼ぶ頼光に姫の返事はなかった。

帰路二瀬川の松の木に血に染まった紅葉姫の着物が掛かっているのを見つけ「姫は、恐怖と童子を失った悲しみのあまりこの川に身を投げたのかも知れない」と家来の一人がつぶやいた。

その後、酒呑童子と紅葉姫の姿を見たものはだれもいないという。

伝説と自然が調和したロマンの里 大江町

見どころガイド

❶鬼瓦公園

大江駅前に堂々と広がる鬼瓦公園は、全国の鬼を愛する人々の力作によって完成された意義の深い公園で、中でも「鬼の回廊」は、全国の鬼師（鬼瓦製作者）の集大成ともいえる鬼瓦が72個、三州・淡路・石州の屋根瓦に囲まれた、大江町の守護神といえる。また、鬼のプロムナード、鬼の酒噴水、鬼の街灯、鬼のマンホール蓋、鬼のアイポイントなどすべて鬼一色で統一されている。

❷元伊勢天岩戸神社

神々が天下った所と伝えられ、奇岩と清流、うっそうとした古木に覆われた幽境に、天下った神々が座したといわれる巨大な御座石が威容を誇る。古くはこの上で巫女が神楽を舞ったと伝えられており、どこか神秘的な雰囲気がただよう。

❸鬼嶽稲荷神社

大江山の八合目にあるのが鬼嶽稲荷神社。珍しいブナの原生林に囲まれた赤い鳥居が印象的。ここから見る雲海は、特にすばらしい眺め。また、ここには肝臓の強くなる「おふだ」がある。

❹元伊勢外宮豊受大神社

丹後地方へ天下った農業の神様豊受大神をまつったもので、雄略天皇の22年、神夢により伊勢山田原に迎えたのが伊勢神宮外宮の始まりとされ、ここの豊受大神社はその元宮だと言われている。

❺才ノ神の藤

大雲橋の南詰から峠道を約1.5㎞奥へ入った所に才ノ神の藤がある。古樫の巨木に絡まって四方に伸びた藤は5月中旬満開となる。頭上に垂れる薄紫の花は、樹齢1200年ともいわれ、町のシンボルとなっている。また、旅路を守る道祖神で安産の神としても信仰されている。（京都府天然記念物）

❻室尾谷山観音寺

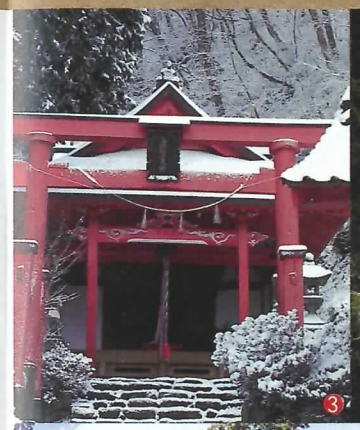
鬼ケ城山の東麓にある観音寺は、遠く和銅7年名僧行基が大和室生寺の観音彫刻の余木を使い、本尊をもうけたのが始まりといわれている。かつては広大な寺領に11坊を連ねる名刹で、本尊は秘仏として33年毎に開扉される。

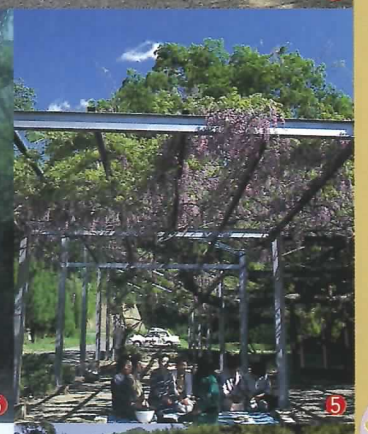
❼二瀬川渓流

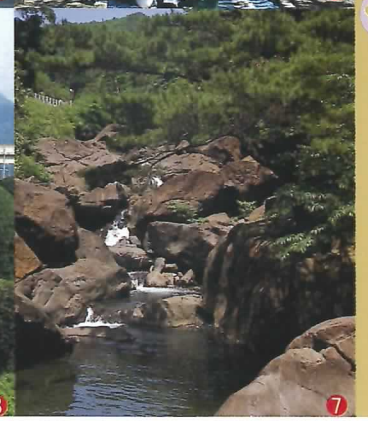
酒呑童子伝説にまつわる「官女の洗濯岩」や「衣掛けの松」がある二瀬川渓流は、四季折々に奇岩と清流が折りなす風景は府下でも有数の美しさと讃えられ、多くの人々が訪れる。また、紅葉の時期は特にすばらしく、大自然のロマンチックな世界を満喫できる。

❽真下飛泉「戦友」歌碑

ここはお国の何百里…と愛唱された「戦友」の作者はこの町出身の真下飛泉。宮川河畔にあるこの歌碑は四季折々の花に囲まれ平和の喜びを与えてくれる。



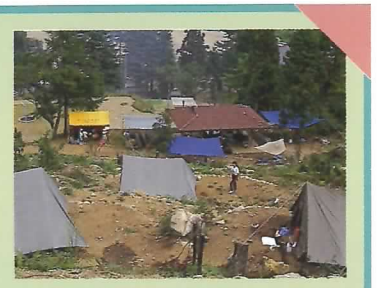




大自然に恵まれて…春夏秋冬 オールシーズンの体験充実

爽やかな風の中で体験するアウトドアライフ。

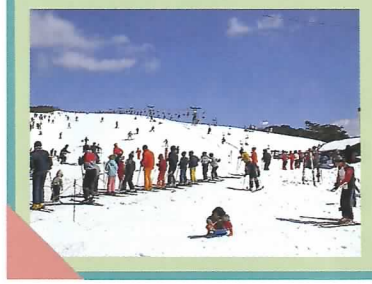
萌える新緑の山々は、花の香り、野鳥の歌声でにぎやか。あちこちに顔をのぞかせている、ワラビ、ゼンマイ、フキなどの山菜が、春の味を運んでくれる。また、オオイヌノフグリ、ヒューガミズキ、タムシバ、ヤマツツジ等がそれぞれの色を競い合い楽しませてくれる。



夏の酒呑童子の里はもちろん野外活動。キャンプに合宿、昆虫採集など涼風の中、家族で楽しむアウトドアライフは爽やかそのもの。特に渓流釣りを楽しんだあとは、とれたてのアマゴ、ニジマスを、その場で食べる。この醍醐味は、ほかでは味わえないスケール。

足もとに息づく新芽を探しながら森林浴。

山々が白く雪化粧するのを待ちうけたように集まるスキーヤーたちで賑わう冬の大江山。大江山連峰を眼前に、日本三景天橋立を眼下に滑る爽快感は、大江山ならではのもの。また、冬の味覚「ぼたん鍋」や、日本海から届く松葉ガニや寒ブリもうれしい。



スキーシーズン到来 広がる白銀の世界。

木々が色とりどりに燃えはじめるころ、数多くのハイカーたちがそれぞれの体力に合わせたコースで大江山ハイキングを楽しむ。眼下に広がる雲海や日本海を眺めながら食べるおにぎりは、なによりのごちそう。また秋の味覚の王者松茸も見のがせない大江山の魅力。

紅葉に燃える山々の中 挑戦する大江山ハイク。

活気あふれる町づくりでイベント盛りだくさん。

●夏まつり

第3セクター宮福線の開業を祝って、毎夏花火大会を中心に盆踊り大会や屋外コンサート等を行っている。

●酒呑童子まつり

毎年10月の最終日曜日、大江山の麓「酒呑童子の里」で行われる町最大のイベント。武者行列など催しものも多い。

●大江山女子駅伝

毎年大江山を舞台に行われる熱い女の戦い。回を重ねるごとに盛大になり、参加チームも全国的になっている。

元伊勢の由来

当地の伝承によれば、第10代崇神天皇の39年、大和笠縫邑から天照大神の御神体である八咫鏡を4年間お祀した丹波吉佐宮の旧跡といわれ、その後全国を転々と移動した後、54年後に今の伊勢神宮の所に正式に鎮座されたとされることから、古来より元伊勢内宮皇大神社として西日本各地の崇敬を集めて来た。

また元々丹後地方に天下った神様である豊受大神をお祀したのが外宮で、雄略天皇の22年に天照大神の夢告によって、三重県の現在地に移転させられたとされており、以来ここを元伊勢外宮豊受大神社と言う。